

入選

小さな親切

群馬県 西中学校

3年 磯田玲奈

私は、夏休みに入ると思い出すことがあります。それは2年前の夏休みのことです。

家族の一員になったばかりのインコといっしょ、祖父母の家へ泊まりに行きました。みんなで外に遊びに行き、祖父母宅へ戻ったとき、私は留守番してくれていたインコをかわいがろうと、すぐにゲージを開けてしまいました。

しかし、玄関はまだ開いていたのです。インコは外へ飛んで行ってしまいました。私は必死で名前を呼びながら、夜遅くまで探しました。野生動物に襲われてしまったのではないか。自分の不注意で、危険な目に遭っているかもしれない、命がどうなっているか。私は、あのときゲージを開けてしまったことをひどく後悔しました。

そして数日後、私たち家族は奇跡的にインコに出会うことができたのです。伯母が投稿してくれたSNSを見てくださった方から連絡があり、「搜索しているインコに似ている子を保護しています」とのことでした。私たちはすぐに会いに行き、うちの子で間違いはないか確認しました。顔も声も匂いも、違うところはありませんでした。

保護してくださった方に伺うと、祖父母宅から20km近く離れた工事現場で保護したとのことでした。野生の鳥ではないし、人懐っこいのでおかしいなと感じたそうです。なおかつ、たまたまその方は鳥を飼育した経験があり、自宅に連れ帰り保護してくれていたそうです。きちんと段ボールで家を作り、ごはんもあげてくれていました。

その後、インコの大冒険は我が家の笑い話になりました。笑い話にできるようになったのは、親切な方に出会えたからです。保護して下さり、偶然SNSを見てくれていたからです。この奇跡のような話により、インコは今でも元気に暮らしています。

そして、伯母がSNSで搜索の投稿をすると、何件もの応援メッセージがあり、無事に見つかったと報告すると、温かい言葉が何件も届いたとのことでした。人のために応援したり、励ましたり、喜びを共有したりすることは、すべてが小さな親切だと感じました。

「親切」とは、当たり前のように当たり前でなく、とても難しいことだと思いました。私は、親切にしたい気持ちがあっても勇気がなく、行動できないことがよくあります。しかし、この経験を通して、勇気を持つことが大切だと感じました。大きな親切は難しいことかもしれませんが、小さな親切の積み重ねが、きっと勇気ある行動へとつながると思います。

だから私は、いつも親切心を持って生きていきたいです。「親切」は相手も幸せにし、自分自身も幸せな気持ちになるものだと思っています。